



女性職員活躍事例 第3回

広島管内で活躍されている女性職員の皆さんにお話を伺いましたので御紹介します。

今回は・ **岩国刑務所 統括矯正処遇官** です。



統括の経歴

採用 美祢社会復帰促進センター
3年目 中等科研修入所
5年目 高等科研修入所
その後の勤務歴
広島保護観察所 保護観察官
現職

Q1 学生時代はどのような勉強をされていましたか。仕事の上で役立っている経験等があれば教えてください。

学生時代は社会学部に在籍し、マスメディア論やジェンダー論など幅広く学んでいました。現在、仕事をする上で役に立っていることを挙げるとすれば、疑問に思うことを自分で調べる習慣が身に付いたのではないかと考えています。

そのほか、体育会バドミントン部に所属していましたので、基礎体力をつけることができたこと、飲食店でのアルバイトでは、事前準備の大切さや「1WAY2JOB」の動作を学び、これらも良い経験になったと思っています。

Q2 この仕事に就ききっかけを教えてください。また、どのように受験勉強をされましたか。

刑務官を拝命するまでは、民間企業で勤めていましたが、ある知的障害のある方とお会いして以降、障害のある方を支援する仕事がしたいと強く思うようになりました。その後、社会福祉士の資格を取得し、市の地域包括支援センターで勤務しましたが、刑務官採用試験を受験したのは、資格取得の課程で、刑務官や保護観察官の仕事の内容を知り、受刑者の社会復帰支援や更生支援に興味を持っていたことがきっかけです。

保護観察官ではなく刑務官を目指したのは、いわゆる塀の中での生活に関心があったこと、受刑者も高齢化していることで、社会福祉士の資格を持った刑務官が居ても良いのではと考えたからです。社会人枠での受験であったため、2次試験対策として、毎日、腹筋や立ち幅跳びの練習をしました。

Q3 これまでこの仕事を続ける中で、特にうれしかったことや達成感を感じたことはありましたか。

特にうれしかったことは、人事交流で保護観察官として勤務していたときのこととなりますが、精神疾患を抱えた保護観察対象者の入院調整をした際、本人が入院を拒み続け、対応に大変苦慮したものの、結果的に入院治療が奏功し、退院時には本来の落ち着きを取り戻して、無事に地元に戻らせることができたことです。周囲の方々の力添えにより、本人の持っている力を引き出すことができたのではないかと感じました。

また、仕事がひと段落ついたときに、ほっとするようなことはありますが、達成感を得るには至っておらず、今はただ、異動するときや退職するときに悔いが残らないよう目の前の業務に取り組んでいます。

Q5 仕事をする上で心掛けていることはありますか。

組織で勤務する上では、チームワークが重要だと考え、個人やチームの力が最大限発揮できるように、内心では、慌てたり焦ったりしていても、態度に出すことのないよう、いつも同じテンションであることを心がけています。

上司が不安定だと部下も不安になりますし、部署内の全員が安心して業務に取り組む、互いに声を掛け合うことにより、ミスを防ぐこともできるのではないかと考えています。

Q4 困難なことや問題はありましたか。また、それをどのように乗り越えてきましたか。

拝命したばかりの頃は、その日その日の業務を予習して、実際に勤務をすることで精一杯でした。失敗により迷惑をお掛けすることが多々ありましたが(今でもありますが)、今日まで何とか仕事を続けることができているのは、その時々で助けてくださる人があったからです。

Q6 業務を進める上で、相談できる職員はいらっしゃいますか。

直属の上司をはじめ、部下にも相談できる人に対しては全て相談しています。相談をすれば、問題解決のためのヒントが得られ、自分一人で仕事を抱えるよりもはるかに良い成果が得られます。

そのほか、私は刑務官としての勤務年数が浅く、経験値があまりないため、上司部下を問わず、経験豊かな方のお話を聴くだけでもとても参考になりますし、夫と同じ施設で勤務させていただいているということもあり、仕事について、夫の理解が得られていることは、とてもありがたいことだと思っています。

Q7 これまでのキャリアを振り返られて、いかがですか。

拝命してから8年しか経っておらず、キャリアと呼べるものではありませんが、これまでの間、工場担当や夜勤監督、保護観察官と様々なポジションでの業務を担当させていただき、本当に感謝しています。

どのポジションでも涙が出るほど悔しいこともありましたが、涙が出るほどうれしいこともありましたが、まだまだ知らないことの方が多く、学ぶべきことがあると思っています。

Q9 女性が仕事を続ける中で、何が大切だと思われますか。

仕事を続けていくためには、ワークライフバランスが重要ですが、それは、私生活を充実安定させてこそ良い仕事ができるという意味だと理解しています。

男性にも共通することですが、仕事の「頑張りどころ」は誰にでもありますので、その頑張りどころでは力を入れ、また、ライフステージによるイベントや体調等に応じて、私生活に重きを置くところではしっかりと休んで、私生活で得られた活カや知見もまた仕事に活かせるよう、長いスパンで考えることが大切だと思います。

Q8 仕事のやりがいについて教えてください

全てに当てはまるわけではありませんが、社会で生きづらさを抱えた人たちが、問題解決の方法を誤り、罪を犯してしまいます。罪を犯してしまった人たちの生い立ちや環境、ものの考え方や言動に対して関心を持っていますので、直接、受刑者と接して指導ができることや、社会復帰支援に携わっているという使命感がやりがいにつながっていると思います。

Q10 どのような職員にこの世界に入ってきてもらいたいですか。

人の痛みが分かる人です。

矯正の組織力を最大限に活かすためにも個々の力はとても大事ですが、個人が優秀なだけでは、組織が十分に機能することはないと考えており、能力のある人は、周りの人のためにその能力を使うことが期待される場所、人の気持ちや痛みを想像できないと、それは難しいのではないかと思います。